

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 曾根 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

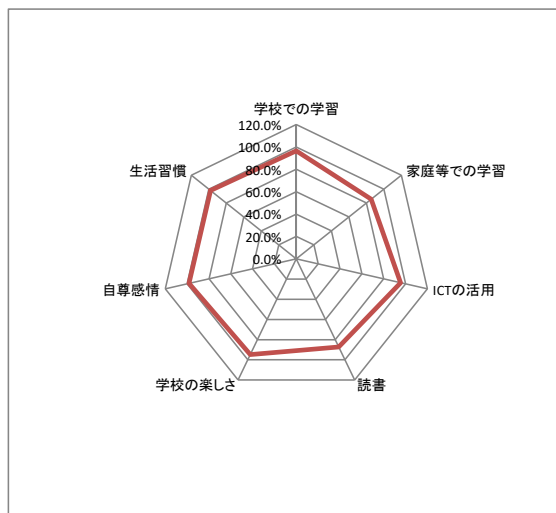
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に、言葉の特徴や使い方に関する事項や、知識・技能を問う、短答式・記述式の問題の正答率が高かった。書く活動や、意見交流する場面を取り入れた授業の工夫の効果が感じられた。 選択式の問題では、話すこと・聞くことの領域で全国平均を下回った。また、文脈に即して漢字を正しく書く問題で、全国平均を下回った。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す問題	
	努力が必要な問題	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。関数・データの活用の領域に関しての記述式問題の正答率が高かった。与えられたデータ等を正しく読み取り、数学的な表現を使って、説明する力が向上した。 短答形式・選択形式の問題では、数と式・図形・関数の領域で全国平均を下回った。授業や家庭学習で、復習を定期的に取り入れ、既習の知識・技能を定着していく必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する問題	
	努力が必要な問題	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っていた。説明したり、分析したりする記述式問題では一部、正答率が高かった。 全領域において、特に、知識・技能を問う問題に課題がみられた。また、「粒子」を柱とする領域に関する問題では、分析して解釈する選択式問題に課題が見られた。 多くの情報量の中から適切に必要な情報を読み取る力や、課題に正対した考察を行う技能を高めていく必要があり、今後授業における指導を工夫したい。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ダイオウゲソコムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する問題	
	努力が必要な問題	水素を燃料として使うくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習については、計画的に勉強していると答えた割合は全国平均を下回った。また、1日あたりの勉強時間に関しても平日・土日ともに全国平均を大きく下回った。 学校での学習については、授業で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり、深めたりすることができたと回答した割合は高かった。しかし、発表する場面では、資料や文章・話の組立などを工夫することができたと答えた割合が低かった。この結果から、よりよく自分の考えを伝えるための技能の向上が課題であることが分かった。 心の育ちについては、「将来の夢や目標をもっていますか。」について肯定的な回答をした割合は全国平均を下回った。 1日当たりの読書時間は、全国平均を下回っていた。このことから、日ごろから本に親しむ生徒が少ないということが結果に出ている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の考えを書いたり発表したりする場面を設定する。その際に、自分の考えを相手に伝えるための言葉の使い方等を押さえるなど授業の工夫をする。また、ICTを活用することで、一人一人の生徒が自己の定着度に応じた課題に取り組み、個別最適な学びに向けた学習環境を設定する。 国語科では、書く力の向上を目指すとともに、聞き取りテストやスピーチ等を通して、聞く力の定着を図る。 数学科では、数と式・図形の単元を重点的に基礎的基本的内容の定着に向けて、復習やミニテスト等を実施する。 理科では、調査問題を工夫し、思考力等を問う問題を充実させることで、思考力等の向上を図る。また、日ごろからめあてとまとめの整合性を意識した授業の工夫を行う。 授業の中で、発表する機会を適切に設定し、相手により伝わる方法を考えながら文章を組み立てる機会の設定が必要である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習用自学ノートコンクールの実施方法の改善を行い、家庭学習習慣の定着と家庭学習への意欲向上につなげる。ミニテストを行うことで、復習するモチベーションを高める。 SNSの使用については、集会等、指導する機会を適切に設定する。また、小中で連携して標語を作成し、掲示等で啓発する。 春1回、秋2回・冬1回の読書週間を設定し、読書への興味を高める。図書室の利用を呼びかける。
